

平成 29 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	生きる力を育む研究会
活動テーマ	普段から社会的弱者を見守るためのコミュニティ生成型防災事業の実践



避難行動 (発災後、避難所までどうやって逃げるか?)	避難所での医療 (常用薬や電源や水はあるか、万一の時に医療は受けられるか)	避難所での食事 (強度の偏食やアレルギーへの対応が可能か)
理解者・協力者の確保 (症状や特徴について理解してくれる人をどう増やすか)	障がいを抱える方やその家族が解決したい課題	避難所での排泄 (トイレに入れるか、オムツはあるか)
理解のない人への対応 (トラブルが起こった際にどう対応するか)	避難所での居場所 (寝られるか、パニックを起こさないか)	避難所での衛生管理 (お風呂に入れるか、着替えはあるか)

平成29年度も前年度に引き続き、地域の防災自助・互助力を強化するとともに、平時の地域福祉見守り体制構築に取り組むためのワークショップ LODE（ロード）の普及を図るための人材育成をも目指した取り組みを行った。

高齢者中心のコミュニティ、マンション自治会、子供会や学校、子ども食堂等、地域内の様々なタイプのコミュニティを対象に LODE ワークショップを実施し、各々好感触を得ることができた。

とりわけ、伊丹市のマンションコミュニティでは、昨年度の LODE ワークショップ実施以降、マンション自治会長自らが考案・開発に取り組んで来た『マルチ担架（寝ても座っても使用できる担架で、万一の際の遺体担架ともなる）』の発表も行われるなど、住民側が主体となった派生的取り組みが出現している。

また、伊丹市の子ども育成組織のワークショップでは、昨年度の LODE ワークショップに参加した子供達が、今年度は「避難行動訓練の際に、地域の高齢者宅を訪問し、高齢者と一緒に避難所の学校体育館まで逃げてくる」という行動ができるようになった。大きな進歩であると受け止めている。

さらに、平成29年度は、要支援者の対応の中でも最も難しい「障害を抱える方々をどのようにして支援できるのか」という課題に向き合った結果、『障がいを抱える方やその家族が解決したい課題をヒアリングするためのチャート図』を考案することができた。そして実際このチャート図をもとに、障がい児を抱える数十世帯の家族に対しヒアリング調査を実施し、このチャート図がある程度有効に使えるものであることも実証できた。